

[書評]

鎌田浩毅著 「火山はすごい—日本列島の自然学—」

池田保夫
北海道教育大学釧路校

Book Review: Volcano is magnificent! –Natural science of the Japanese islands- by Hiroki Kamata

Yasuo IKEDA

Department of Earth Science, Hokkaido University of Education, Kushiro 085-8580, Japan

「火山はすごい」という、意表をつくような一風変わったタイトルの本が、2002年6月28日 PHP 研究所から出版された(写真1; PHP 新書、240p、本体価格740円+税)。著者は、長年、日本やアメリカなどの火山の研究をしてこられた鎌田浩毅氏で、副題に「日本列島の自然学」とある。これらのタイトルは、著者の火山研究の体験を通して、一般の人に火山の面白さを伝えたい、そして、そこから自然の見方、つきあい方を学んでほしいという気持ちを表現しているらしい。内容をみても、火山のことを教える(教えてやる)というスタンスではなく、本文中にある「すみません。科学の話ですが、どうかちよっとお時間を割いて、聞いていただけないでしょうか」という文章に象徴されるように、科学から遠い人にも読んでもらいたいという姿勢が感じられるおもしろくて役にたつ自然学の入門書となっている。また、難しい漢字には、ふりがながふられていて、中学生ぐらいからでも読んでもらえるようになっている。各章の内容をみていこう。

本書では著者が携わってきた日本の五つの火山をとりあげ、それぞれの火山が一つの章を構成する作りになっている。

プロローグ

- 第1章 阿蘇山—火山学者漱石誕生!?
- 第2章 富士山—美しさも期間限定!
- 第3章 雲仙普賢岳—自然は人知をこえている
- 第4章 有珠山—噴火予知成功!
- 第5章 三宅島の七不思議

エピローグ

火山の本の紹介
用語の索引

プロローグは、著者の火山との出会い、この本を書くにあたっての意気込みをポエム風に語るユニークな仕掛けで、読者

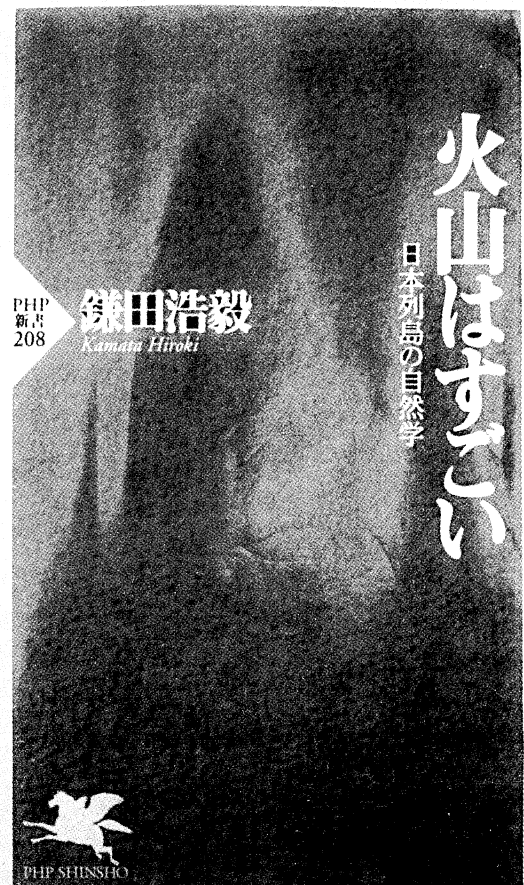


写真1 「火山はすごい—日本列島の自然学」

鎌田浩毅 著、2002年6月、PHP 新書、240頁、定価(740円+税)。

を驚かす。第1章は、夏目漱石の「二百十日」にでてくる阿蘇山についての記述の引用からはじまる。こうした文学作品の引用が随所にみられるのもこの本の特徴で、著者の教養の深さを示すと同時に、科学が嫌いな人にも読んでもらいたいという著者の「勝負を賭けた」意識が感じられる。さて、この章は、実は、阿蘇山を舞台にした火山学者鎌田浩毅の誕生秘話で、人との出会い、フィールドワークの面白さが実に生き生きと伝わってくる。第2章は、美しい富士山の研究の歴史を新古今和歌集などを引用しながら巧みに噴火の歴史を紐解き、そして来るべき噴火の可能性、ハザードマップと社会との関わりにいたるまで書かれている。第3章は、1990年11月から始まった雲仙普賢岳の噴火、特に火山災害に対する研究者の在り方、役割についての著者の見解が述べられている。第四章の有珠山は、2000年3月から始まった噴火、第5章の三宅島は、2000年6月から始まった噴火について、その活動の推移がわかりやすく書かれている。エピローグは、科学(理科)は面白い、火山は面白いということを何故伝えたかったのかという著者の考え方が熱く語られている。そして、各章の終わりには、「コーヒーブレイク」というコーナーが設けられ、科学と人間にまつわるエピソードが書かれていて本文以上に面白いエッセイにな

っている。

以上が、大まかな内容だが、これまでのことから想像つくように、この本は、火山学の入門書ではなく、著者のいう「科学文学」という表現がピッタリだと思う。エピローグの「私は、火山のおもしろさを伝えるおもしろさを、伝えたかった。……この本を書いていて、私は、実に楽しかった」という記述からも著者のこの本にかけた真意が伝わってくるように思える。ですから科学(理科)なんてわからない、難しい、嫌いだという人達にも十分興味深く読める内容になっていると思う。日本には多くの活火山があり、また火山が見えないところに住んでいても、少し地面を掘るだけで、いろいろな火山灰やローム層を見ることができる。このことは、我々が日本に住んでいるかぎりには、火山とは無縁であることはできない宿命を背負っているといえるでしょう。しかし、我々は同時に火山の恵みの一つである温泉を楽しんでいる民族でもある。このことを考えると、この本が、一人でも多くの人に火山について関心・興味をもつことができるきっかけになればと願う次第です。特に、中学校・高等学校では、理科の副読本としても使えるのではないかと思います。なお、この本を読まれて、さらに深く火山のことについて知りたくなった時は、「火山の本の紹介」という項目が役立つだろう。